

教育目標		心豊かでいきいきと生活する子ども					
重点目標		1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。 3 健やかな心と体づくりを進める。		2 友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。 4 家庭・地域社会との連携を図り、地域に開かれた幼稚園づくりに取り組む。			
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
確かな学力の向上	自ら学び自ら考える力の育成	・自分の思いを伝え合う子どもの育成に努める。 ・学級経営目標を年度当初に明確に設定し、思いを伝えたり、伝え合ったりする力の育成に取り組む。 ・公開保育や実践事例研究を行い、自分の思いを伝え合う力の育成を意図した保育を展開する。	・園での教育活動により、伝え合う力の育成ができたという評価が80%以上になる。 ・月1回実践事例を出し合ったり、学期に1回以上の園内研究会を行ったりし、思いを伝え合う力を育成するための教師の援助について検証する。	A	・「人の話を聞く力や自分の思いや考えを言う力がついてきた」という項目についての評価が98%であった。教育内容についての理解が深まっている。 ・今後も実践事例を出し合い、思いを伝え合う力の育成のために意図的な教師の援助を実践していく。	・保護者と共に教育を考え、推進していく連携の形をこれからも大切にしていこう。 ・職員会議や研修会などを通してより教師の意図性のある教育が提供できるようにしていく。	他者が何をしているのかを見て話を聞き、何を思っているか、何をすればいいのかを考えることが教育の中で大切にされていることがわかった。子どもが自ら考える力をつけるには大人のかかわりが大切である。年間を通して4・5歳児のペア活動は互いへの影響があり教育としての意義が
	直接体験を通して子どもが心を動かす保育の推進	・園の特色でもあるピオトープなどの園庭の自然物を取り入れた保育を工夫する。	・月1回ピオトープ研修会を実施する。 ・昆虫館の学芸員を招聘し、様々な虫に興味をもてるような機会をつくり、保育室で生き物を飼育する機会を増やす。 ・畑や花壇で野菜や花の栽培を行い季節を感じられる機会をもつ。	A	・月1回のピオトープ研修会を継続して行うことができた。 ・アンケート結果では98%で達成できた。	・園の特色であるピオトープを活用した教育活動を引き続き展開していく。保護者や4歳児対象の内容についてもさらに検討し、計画的に実施していく。	保育室の環境として季節の自然や生き物などが子ども達が興味を持てるように工夫して準備されていることがいい。五感を用いた実体験が重ねられるように園庭等の環境整備を今後も継続して実施して欲しい。
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・体力向上に視点をあてた保健活動を充実させていく。	・運動遊び専門の講師を招聘し、体力向上に努める。 ・保健の話や研修会の実施等を通して啓発を進めていく。	A	・アンケート結果では96%で達成できた。 ・保育の中での運動遊びや運動遊びを取り入れた健康カレンダー、講師を招聘した運動遊びに継続して取り組む。	・講師を招聘した運動遊びの活動を年間で計画していく。4歳児についても内容を検討していく。	運動遊びに子ども達が積極的に取り組んでいたため、継続して取り組んで欲しい。4歳児も実施して欲しい。「ほけんの話」は視覚的に分かりやすく工夫されていて、子ども達もよく理解していた。
	特別支援教育の推進・充実	・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・特別支援に視点をあてた保護者研修会を実施し、インクルーシブ教育を進めていく。	・個別指導計画を基に保育を進め、記録や話し合いを通して子どもの成長や課題を全職員で共通理解する。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を年6回実施し、保護者啓発を進めていく。	A	・特別支援教育についての話し合いを月2回実施し、個別指導計画に基づいた指導を実施する。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を年6回実施し、保護者啓発を行う。	・特別支援教育の推進については、園内の意識向上を進めることができた。 ・今後も教師間での連携を大切にしながら、個別支援計画に基づいた指導を実施する。	インクルーシブ教育について保護者の意識を深める話や研修会があればいいのではないかと。全ての人が生きやすい社会になるために理解を深めるには重要な事である。担任と担当者が連携し教育の保障ができるように考える。
	人権教育の推進・充実	・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・人権についての意識を高める機会をつくり、保護者・幼児に啓発を行う。 ・人権教材「ほほえみ」「いたみっこおやくそくカード」などを必要に応じて活用し、自尊感情の育成に努める。 ・伊丹市人権・同和教育研究大会で自尊感情の育成について実践したことを発表する。	・人権教育に視点を当てた学級懇談会を年1回行う。 ・自尊感情の育成について、保育の中で工夫していることの情報交換を積極的に行う。 ・伊丹市人権・同和教育研究大会で自尊感情を育み、互いのよさや違いを認め合う保育についての発表を行う。	B	・自尊感情についてのアンケートにおいては98%の評価であった。 ・人権を大切にしたい保育について、懇談会を実施し、保護者啓発を進めることができた。 ・LGBT等を尊重した教育活動の実践に取り組む、子どもの自尊感情を高める活動を意識し実施している。	・日々の教育活動の中で教師の対応について、職員会議の中で必ず振り返り、人権意識を高める努力をする。 ・人権を視点とした学級懇談会を年1回実施する。
教師の教育力の向上	教職員研修の充実・人材の育成	・質の高い教育活動が行えるように個々の教師の力を育成する。	・質の高い教育活動に向けて、幼児理解を基盤とした保育のあり方についての話し合ったり、園内研究、共同研究を進めたりしていく。 ・実践してきた保育の成果をまとめ、11月に研究発表会を行う。 ・教師それぞれが目標を設定し個々の課題に向かって研修会に参加する等して専門知識を深め資質向上に努める。	B	・研究発表会を通して、幼児理解を基盤とした保育の大切さを感じ、保育実践に努めることができた。 ・園全体の教育の向上について意識をもち、教師同士がかかわり合って育とうとする意識をもつようにする。	・園内での研修の充実を図り、学期に1回の園内研修会を実施し、教職員の資質向上に努める。 ・共同研究会に積極的に参加し、教育内容等について学び合うようにする。	研究会でのいい評価を受け止め、その成果を今後の教育にしっかりとつなげていって欲しい。教師として自分がどうであったか、教育として責任を果たせたかを振り返り、日々教育の質の向上に努めていって欲しい。

開かれた・信頼される園づくり	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制として、避難訓練や不審者対応・交通マナーを身につけるなどの指導を定期的実施していく。 ・降園指導や交通安全教室などを実施し、意識を高めていく。 ・流行性疾病などの情報を伝え、早期予防を啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回、交通指導などの安全指導を月1回は実施する。 ・流行性疾病について、予防ができるように随時保護者に直接呼びかけをする。 ・園の教育や情報で安全意識が高まった評価が80%以上になった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理については、危機管理体制の整備を進め、職員、子ども、保護者がそれぞれに訓練などを通して意識できるようにした。今後も計画的に進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練等を通して、安全管理についての意識を高めていく。緊急時の行動が的確にできるように訓練の内容を変え、臨機応変に対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・降園指導は、子どもにも保護者にも改めて日々の登降園で注意すべき事が確認でき、交通安全に対する意識が高まるので引き続き実施していただきたい。
	学校園情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容を保護者や地域に発信していく機会をつくり、教育に対する理解を進めていく。 ・ビデオ等を活用した懇談会や幼稚園だよりやクラスだよりなどを定期的に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園での教育内容を視覚を通して伝える保育を語ろう会を年5回実施する。 ・幼稚園の教育内容や家庭教育の啓発につながるたよりを月1回発行する。 ・HPの更新を月10回実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校園情報の積極的な発信に取り組み、HPについては月10回以上更新できた。 ・ビデオ等を活用した懇談会を年3回以上実施し、教育活動についてのアピールを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育内容を理解してもらい、保護者と連携して教育活動が推進できるように、情報発信に引き続き取り組んでいく。(保育を語ろう会年5回、地域のたよりに園の情報を掲載する、クラスたより等を月1回発行) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を実施する時は事前にその教育の意図と子ども達がどのように向き合ってきたのかを具体的に保護者に伝えることでより信頼関係が築かれていき、教育への理解度が深まる。
	保護者の関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・園内行事を通して子どもへのかかわりの機会を設定し、子育ての楽しさを共感し連携を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAが参加しているサークル活動の組織を活用し、園や子どもへのかかわりの機会を意図的ににつくっていく。 ・おやじの会を年4回計画的に実施する。 ・誕生会の出し物を誕生児の保護者が行うようにし、保護者同士のかかわりが深まる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会の出し物を保護者が毎月実施し、子どもへかかわる機会をつくる。 ・おやじの会を年4回実施したり、随時サークル活動を実施し、保護者間の連携が深まるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の関係は良好で評価も高かった。 ・子育て推進事業としての「おやじの会」についての賛同が100%であったので、今後も継続して実施していくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のサークルが活躍する場の工夫(未就園児の会、参観日など)を進めることとおやじの会(年6回)等の活動を実施し、保護者同士の関係づくりに今後も取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の関係が良好でつながりの強さを感じる。グループ登降園やサークル活動等を通して保護者同士が助け合う関係が築かれている。互いに個性を理解し認め合うことが、より良い子育てにつながる。PTA活動の内容については説明を丁寧に行っていく。
	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児と園児の交流を行う「なかよしたみっこ」を行い、幼稚園教育への理解を広げる。 ・地域へ子育て支援に関する情報の発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしたみっこ、園庭開放、みんなのひろばなどの機会を生かして園の教育を伝える。 ・バースデートークを行い、どの保護者も日々の子育てを楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしたみっこを年10回実施する。 ・みんなのひろばやむくむくルームと随時連携し、園の教育を知ってもらい機会をつくり、子育て支援の評価が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児対象の子育て支援事業「なかよしたみっこ」の活動が定着し、参加者が増えた。 ・子育て支援についての評価も100%であった。 ・さらに内容を充実し、園が子育て支援のセンター的役割を担うことができるように取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかよしたみっこの活動を年15回程度実施しさらに充実した子育て支援を行えるようにしていく。 ・バースデートーク(年12回)の内容を工夫し子育て支援をさらに進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児との交流は、子育て支援だけではなく、園児にとっても年下の子ども達と触れ合う良い機会となっている。その機会を生かして、園での教育について説明したり、園の保護者に自園のよさを伝えていただいたりしていく。
業 務 組 織 改 善 営	<ul style="list-style-type: none"> ・園務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園務日程を立て、計画的に職員会議や作業に取り組む。 ・園務分掌上の仕事に各職員が責任をもって取り組む。 ・ノー残業デーについての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率のよい業務についての意識を高め園務分掌についてそれぞれが責任感をもって園運営にかかわっていく。 ・月1回作業日を設定し、全職員で効率よく作業に取り組む。 ・職員会議を時間を決めて行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間短縮の工夫をさらに進め、効率のいい業務執行ができるようにしていく。 ・職員の年休取得率をさらにあげ、快適な職場環境をつくり、業務改善を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が園務分掌での役割を自覚し、率先して活動に取り組むように組織改善を進めていく。 ・効率のよい業務についての意識をさらに高め、年休取得率をあげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園としての活動内容について再検討していく必要がある。年間を通しての行事を捉え、精選していくことも考える。また、行事については、年度当初に説明を丁寧に行っていくことも大切である。 	

学校関係者評価総括

保護者と幼稚園の良好な関係が築くことができている。年間を通しての教育の取り組みが、保護者の信頼のもと運営できている。

次年度に向けた重点的な改善点

自園の特徴的な教育内容をさらに園内外に分かりやすくアピールし、幼児教育の大切さを伝えていく。子育て支援のセンター的な役割をしっかりと果たしていく。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った